

# 土木學會選奨土木遺産

さ かい      ば し

## 境 橋

### 平成 19 年度認定

- 所在地：栃木県那須烏山市
- 竣工年：1937（昭和12）年
- 構造形式等：RCオープンスパンドレルアーチ橋  
（ヴォールト+板）  
橋長：112.5m 3スパン  
（37.27m+37.98m+37.27m）  
幅員：6.1m
- 管理者：栃木県



明治初期までは渡し舟で連絡していましたが、1897（明治30）年、幅7尺（約2m）、長さ6間（約11m）の舟を10艘並べ、その上に梁を渡し、板を敷き並べた舟橋を設置しました。（1代目）

しかし、洪水時には取り外さなければならないなどの問題があったため、1920（大正9）年、洋式木橋（形だけ洋式を模倣したトラスの木橋）が架設されました。（2代目）

その後、多発する洪水への対応から永久橋への架け替えが望まれ、1937（昭和12）年に、現在の境橋が架けられました。（3代目）

設計者は、関東大震災後の隅田川橋梁群の設計などを手がけた橋梁設計の第一人者である成瀬勝武氏です。

境橋は、1937（昭和12）年、那須烏山市の那珂川（大沢～宮原間）に架けられた橋長112.5m、幅員6.1mの上路式のRCオープンスパンドレルアーチ橋※で、全国でも8例程度しかない貴重なバルコニー付きのRC橋です。

橋脚底部は楕円形で、3連のアーチ・円形のバルコニーとともに丸みを帯びた柔らかな印象を与え、バランスの良い3連の開腹アーチは、那珂川屈指の景勝地（通称：落石）とも調和して優美な景観を呈し、市民に親しまれています。

※RCオープンスパンドレルアーチ橋  
⇒鉄筋コンクリートにより造られた、上路とアーチ部の間の部分（スパンドレル）に空間を設けたアーチ橋

